

シリーズ「療育指導の話題」③

## ムーブメントユング

国立病院機構和歌山病院

療育指導室 磯田由美

近年、医療や教育、福祉の現場等では、心と身体を健康を支える「ムーブメント」が注目され、対象児・者に応じて様々な形で工夫され、幅広い年齢層において取り入れられています。「動き・動作・運動」の意味をもつ「ムーブメント」は、楽しく身体を動かしながら、「あたま(認知、言語機能)やからだ(身体運動機能)」、「こころ(情緒、社会性)」に働きかけ、全体的な発達を支援するものです。また、この「ムーブメント」は、対象者の目的や発達の課題に沿って行われますが、その環境設定の重要な要素として、「遊具(動きたくなる、触りたくなる環境)」や「音楽(情緒の安定、気持ちを高める環境)」、「集団(喜びを共有する環境)」が挙げられます。これらが互いに機能し、作り出される環境こそが対象者の心を解放し、自発的な動きを引き出すことができます。

ムーブメント教育で開発された代表的な遊具について紹介します。エアトランポリンは、揺れ刺激により身体を楽しく動かすことで、空気を身体全体で感じ適度に刺激され、揺れや自分の身体への傾きを感じることで、姿勢や動きをつくるのに必要な感覚を育てることに繋がります。また、パラシュートでは皆で協力し、歌声等に合わせ上下に動かし大小の波をつくり、クルクルと回すことで色の変化を楽しむこともできるなど、総じて協調性や社会性を育てることができ、実際に行われている内容について紹介します。既製の遊具に加えて、遊具の開発として現場の職員が対象児・者の使用目的に応じて季節感を取り入れるなど、より一層の楽しい雰囲気を出せるような工夫を凝らしたものも製作し活用されています。保育園のプール活動などで多くとり入れられている方法として、大きな布団圧縮袋に色とりどりのスーパボールや色水の入った魚の透明容器などを入れると特製の「ウォーターベッド」を手作りで作られています。この上に乗り友達と遊ぶことで、それらの色彩や感触を全身で感じ、喜びや楽しさを共有することで成長・発達の手助けとなります。

このように「ムーブメント」は、成長発達に必要な乳幼児からQOLを支える高齢者に到るまで多様に活用されていますが、これは二十五年以上も前より、特に発達に遅れがある子どもの育ちに大きな役割を果たしてきました。そして、それは当院の重症心身障害児(者)病棟に入院する重症心身障害児(者)においても同様です。重症心身障害児(者)の発達は、発達初期の状態に近く、感覚や運動機能も十分な働きができないなど未熟な状態にあります。そのため訓練ではない「遊び」の要素をもった「ムーブメント」が何よりも必要とされ、重い障害ゆえに自ら動くことが極めて困難な重症心身障害児(者)にとっては、様々な能力を育て、発達のきっかけとなっています。